
令和3年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業

周辺地域と連携した
甌島地域の観光活性化に係る調査事業

— 報告書 —



株式会社ジェイアール東日本企画

2022/03/25

■ 事業目的

薩摩川内市では、甕島の観光を柱とした地域振興を図るため、「第2次甕島ツーリズムビジョン」を策定し、「甕島ツーリズム推進協議会」（平成27年度設立）において、甕島地域の観光地づくり、ガイド研修や、観光関連業者の情報交換などを積極的に実施、また令和2年8月には甕大橋が完成し、観光の起爆剤として期待が寄せられている。

このような中で、令和2年以降のコロナ禍においては、大々的な誘客施策を控えざるを得なかったことや観光関連事業者の担い手不足、高齢化、観光地として定着しない等の課題を抱えている。

一方、甕島へのアクセスは、薩摩川内市及びいちき串木野市（以下、「両市」という。）からの航路があり、いちき串木野市においても、英国留学生記念館のPRや様々な体験プログラムの事業者育成など、新たなファンづくりに注力しており、関係機関との連携を強化することによって広域観光の活性化を推進していくことが求められている。

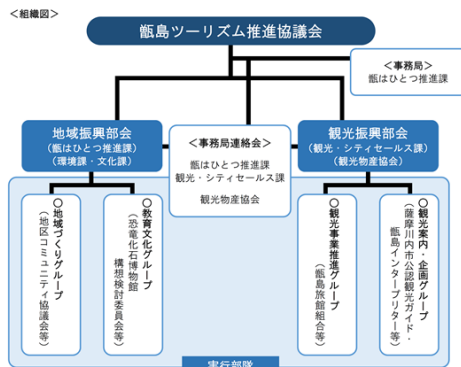
そのために、九州経済産業局では、両市の連携による、ポスト/with コロナも踏まえた広域観光モデルの開発、地域の魅力を強化・発信する取組を支援するとともに、当該地域の観光課題の解決、及び民間主導で持続可能な地域で稼げる観光を構築するために必要な調査事業を実施するものである。

(1) 観光動向に関する現状の調査分析

今後の活動計画及び戦略方針の策定のために、甌島を中心とした両市の観光に関する現状と課題について、文献、インターネット、各種調査報告書、両市・政府統計データ等による情報収集・分析、並びに島内観光事業者のヒアリング調査を実施した。

①甌島における受入れ体制整備等の取組状況

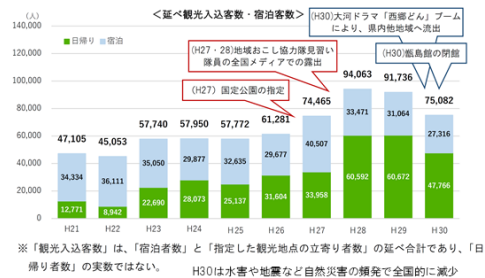
甌島観光の受け入れ体制整備等は、甌島ツーリズム推進協議会の設立とビジョン策定により、市内の観光業関係者と行政の連携を強化。体験観光プログラムの造成と、お土産品の開発に積極的に取組み、観光物産協会が販売する件数の大幅な拡充を図っている。一方で、旅行ツアーの誘致と教育旅行は半減、観光案内所の利用や甌島売店の売上は微増に留まっている。



※「観光地域づくり法人（DMO）」：観光地のマーケティングとプロモーションやブランディングのほか、クオリティコントロール、安全管理、資源管理などを担う機関のこと。
薩摩川内市観光物産協会は、地域DMO（観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風物など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。）として観光庁登録を受けている。

【観光振興に関する取組の主な成果】

	平成25年度	平成30年度
新設した観光案内所の年間利用者	2,988人	3,250人（増減率9%）
誘致した旅行ツアー	198ツアー 3,021人	218ツアー 1,736人（増減率△43%）
県外からの教育旅行の受入れ	15校 1,960人	8校 1,043人（増減率△47%）
観光物産協会売上げ（全市分）	53,652千円	247,783千円（増減率362%）
甌島の体験プログラムの数 （観光物産協会が販売するもの）	5件（平成26年度）	71件（増減率1,320%）
甌島のお土産の商品アイテム数	22件 （きやんせふさと館）	90件（増減率309%）
観光物産協会の甌島売店の売上げ	6,249千円（平成27年度）	12,945千円（増減率107%）



ツーリズムビジョンの策定による官民一体となった取組みにより観光入込は順調に推移（H30年は全国的な自然災害という特異な状況に寄る減少）

図表出典：甌島ツーリズムビジョン

②甌島の現状

閑散期である冬季も増加傾向にある。また、宿泊施設は減少しているが回転率は増加。また、航路利用者数が減少しながら、観光入込（延人数）が増加していることから、島内の回遊性の拡大や滞在期間の延長が推察される。



（出典：観光・シティセールス課）



地域	平成25年度		平成30年度	
	施設数	総収容人数	施設数	総収容人数
里	8	273	7	170
上甌	5	60	6	42
下甌	19	380	17	305
鹿島	4	47	3	45
合計	36	760	33	562

宿泊施設の回転率 約43回 → 約49回
（年間宿泊数：総収容人数）

＜甌島ツーリズムのメインターゲット＞

新幹線を利用する九州圏内からの少人数（1～4名程度）の旅行者

取組の具体例	平成30年度までの取組状況
①連携、関係者の理解と関与	- 協議会の各部署の開催や部会の合同実施等による交流の実施 - 観光物産協会が組織する「友の会」や「駅市取引業者会」との意見交換会の継続実施 - 観光振興部会ブロック会議開催による地元関係者の情報交換・勉強会の実施 - 日常マップ等の作成による地域ワークショップの開催や各種事業協力による制度周知の拡大 〇八古道や軽の木道等の再生プロジェクト等地域単位のツアー実施
②推進組織の設置	〇甌島ツーリズム推進協議会の設立・定期的な協議

甌島ツーリズムビジョン推進協議会の設立が民間の活力の導入にもつながり滞在期間延長を呼び込んだ可能性

図表出典：甌島ツーリズムビジョン

(1) 観光動向に関する現状の調査分析

③ いちき串木野市の現状

いちき串木野市観光マスタープラン (H26)
(本事業で最新の観光まちづくりの動向を確認)

基本コンセプト

食べる・観る・楽しむ

～出会いと体験・体感が感動をよぶ街 いちき串木野～



【地域再生計画】

- 自慢できるまちづくり事業
- ・ 食のまち磨き上げ事業
- ・ 関係人口創出・拡大事業 など

いちき串木野市で活発な観光農園と類まれな甕島の離島資源のミックスで新しい観光価値を生む可能性

薩摩藩英国留学生記念会館



【地域再生計画】

- 子どもの未来を育むまちづくり事業
- ・ 国際社会で活躍できる人材の育成
- ・ SATSUMA-STUDENT 育成事業 など

幕末・明治期の日本のイノベーションの礎。
甕島 鹿島小学校「ウミネコ留学」(離島留学)との連携可能性

広域連携を通じた各々の個性の組み合わせにより相乗効果を得られる期待

図表出典：いちき串木野市資料

④ 両市の甕島の観光交流に係る取り組み

<薩摩川内市の主な取組> 情報発信・旅行商品造成

- 情報発信メールマガジン・サイト運営・FBページ運営
- 個人旅行型甕島旅行商品造成事業(フリーチョイス)
- 甕島交流促進事業(TV番組制作放送・AGT招へい)
- 甕島地域情報発信事業(旅行パンフレット発行)
- 旅行商品造成支援(旅行会社補助)
- 地域おこし対策事業(地域おこし協力隊)
- 甕島観光ライン周遊バス運行事業

<いちき串木野市の主な取組> フェリー利用促進(航路維持)

- 甕島航路活性化推進事業(市民向けツアー造成販売)
- 甕島経済交流事業(経済・交通・運輸等補助)
- 串木野・甕島航路活性化推進事業(フェリー代船補助)
- 串木野・甕島航路活性化推進事業(旅客待合所管理)
- 甕島フェリー自動車航送割引事業(車両運賃割引)
- 甕大橋開通記念「かけはしクーポン」誘客事業(地元フェリー利用者へのクーポン発行)
- アドベンチャー事業補助金(小中高生体験活動)

(1) 観光動向に関する現状の調査分析

⑤ コロナ禍の中での島内観光事業者等の現状認識と今後の論点整理

これまでの島内観光関係者の取組み（ヒアリング対象者）

- 釣り客を主なターゲットにした旅館経営
- ビジネス客中心の民宿＋住民も対象とした食堂の経営
- 民宿＋レンタカー事業の運営
- ツアー会社＋レンタカーの運営
- 着地型ツアー造成＋販売の実施
- エコツーリズムを意識したカヤックツアーの開催
- 希少植物の観察・撮影客向けのトレッキングガイドと環境整備
- 飲食＋食品加工＋観光ガイド業＋宿泊・集会施設運営を組合わせた複合的観光事業運営
- 果樹園＋体験農園＋かき氷店の複合型農業の展開
- 定置網体験＋海上タクシー＋飲食店の複合経営
- 水産資源保護活動

先行ヒアリングにおける甌島の観光振興等に対する意見など

（ポジティブ）

- ・ 特異な景観だけでなく、ユニバーサル対応などの個性や質の高い観光を前面に出すべき。
- ・ 観光客は減ったが、ふるさと納税や通販が好調である。
- ・ 困難な状況の改善に取り組む島の人達の姿を観光資源化したい。
- ・ 島のサイズ・キャバにあった観光スタイルで環境の独特さを武器とした観光に取り組むのが良い。
- ・ アクセスを改善し日帰り体験の拡充ができると良い。
- ・ 漏れの無い周知の徹底が前提で、やる気のある事業者を支援するやり方は可能性がある。
- ・ コロナの状況もあるが、全く受け入れないわけにはいかない。まずは県内を対象に来訪者を増やす方向が良いのでは。

（ネガティブ）

- ・ 外食場所が少ない、交通の便が良くないなど、島の不便さが伝わっておらず、クレームになる。
- ・ GoToの来客は島のキャバの低さを露呈させた。
- ・ 離島が多い鹿児島県において甌島を選ぶ理由が現状では弱い。移動の不便さ、費用面でも比較されると勝てない。
- ・ 次々とコンサルが来てワークショップを繰り返しているの、そういう対応に疲れている事業者も多いのではないかと。
- ・ 課題抽出は過去にも何度もやっている。そうした会議を繰り返すのではなく過去の内容を活用しても良いのでは。
- ・ ビジネス客（自衛隊設備工事関係者）が多い下甌とそうでない上甌で観光に対する温度差がある。下甌の宿泊施設では観光客は取らないという宿もある。

（ニュートラル）

- ・ 橋の効果は、観光よりも、下甌の住民が生活に便利な上甌に流れている印象。
- ・ 観光客だけでなく島民向けのサービスの拡充も必要。

ヒアリング対象者の活動意向

- ・ 小規模事業者の連携でユニバーサルツーリズムへの対応
- ・ 島の環境を活かしたヨガなどの新しい活動の開発（島民の遊びの充実化）
- ・ 本土でみられる海の家等海辺を活かした特徴的な滞在の提案
- ・ 最近水揚げが増えたものの未利用となっている南方の魚種の活用・水産資源保全のスタディツアー
- ・ 対象限定の特別な自然を味わえるガイドツアー
- ・ 島内の事業者同士の接点、関係づくりから新しい連携を模索したい

3エリア連携への期待

- ・ 島と本土の連携による市外からの長期滞在の誘客
- ・ それぞれのエリアの食材の流通促進による多様性づくり
- ・ 観光に関連する情報の共有・交通事情の改善で欠航時の地元滞在の楽しみ方を共創
- ・ 島で両市本土の産品販売を拡充
- ・ 本土飲食店と連携した食の資源の掘り起こしと活用（商品開発と加工の充実）
- ・ 県内でも甌島を知らない人も多いのでこの機会に来訪してほしい

統計分析や両市・島内事業者のヒアリングを踏まえた今後の取組みの方向性を見出すための論点

- 個々の事業者が相互に個性を尊重し合い、共に島の魅力づくりに取り組む環境
- 業種を超えた民間連携で各種事業を活用する体制づくり
- 甌島の対外的なイメージの補強、認知拡大
- 案内の充実、サインの改良などソフト対策によるアクセスの改善
- 島を理解し守るルールづくり
- 島内の二次交通対策の方向性
- 島と本土（2市）の情報共有と発信の仕組みづくり
- 混載船便・島内貨客混載など物流・人流環境の改善
- 観光庁、農水省、有人離島等の他の事業活用した主体的活動
- 会議とは別の事業者間の日常的なネットワーキング

コロナ禍の影響により来訪者が激減し、回復の見込みが見えない現状に対する危機感や不安が島内事業者・関係者に募っている状況。一方で、感染症の拡大防止のための移動・行動制限がある中でも、現状の打破に向けて前に進もうとする事業者は各々の特徴を活かす活動に取り組んでいる。



統一的な活動目標・計画の策定に先立ち、改めて島内事業者の活動状況を把握して方向性を検討することが求められる。

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

(1) の状況を踏まえたターゲットの設定、コンセプト抽出、プロモーション計画策定並びに令和3年度の活動方針・計画及び戦略方針等を策定するための薩摩川内市・いちき串木野市の行政関係者協議の場を設置・運営した。

①協議会の開催

第1回(8月30日開催) 事業の進め方について、以下の案にて承認を得た。

■ スケジュール(案)

《基本方針》

コロナ禍の影響で大きく変化している甑島観光の現状を把握し、島の観光事業者の主体性とモチベーションを引き出しながら事業を推進していく。

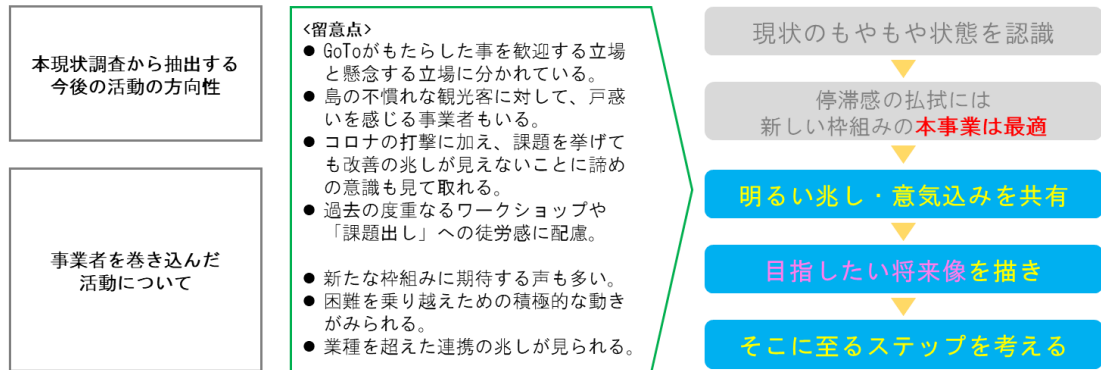
8/30	● キックオフ会議 (事務局内部会議 : オンライン) 事業の始動にあたり基本的な実施内容や協議会組織構成、役割分担について協議、確認する
9月上旬	(1) 甑島観光の現状把握 (関係者ヒアリング、観光動向調査分析) ● 甑島観光関係事業者ヒアリング (オンライン) ● 観光動向調査・分析 (既存資料分析、事例等の調査) ⇒ ヒアリング、調査分析結果をまとめて報告書提出
9月中旬～下旬	(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定と実行体制整備の開始 (1)の報告書を踏まえ、本事業の活動方針、計画及び戦略方針について両市役所担当部署メンバーを中心に協議。 特に、コロナ感染症の影響の長期化を念頭に、島内事業者のモチベーション維持につなげていくことを重視し、実行体制整備を進める。
10月上旬～	(3) 島内観光関係者との意見交換、実施内容の精査 (1)の現状把握と(2)での協議内容を踏まえ、島内の観光関係事業者と本事業を活用した取り組みに関する意見交換、計画づくりを、ステップを踏みながら進行。協議会設置を前提とした、実行組織の調整を進める。 本事業が行政主導ではなく、民間の主体的な取り組みを支援する事業であることを前提に、地元の意向を採り入れた計画づくりとなるよう意識する。
10月下旬	《以降の活動案》 *状況に応じ、可能な限りリアルで実施 ① 意見交換会 本事業のスキーム(民間主体の活動支援)、これまでの協議の状況などを説明したうえで、地元観光関係者と本事業を活用した取り組みに関する意見交換を行う
11月頃	② 計画検討会 本事業を活用した取り組み内容を甑島の事業者を中心に検討し、計画を整理する。3年程度の中期的な目標を設定したうえで、推進体制、年度ごとの実施内容等を検討。 今年度は次年度以降のトライアル的な位置づけとし、目的・目標を設定した上で実施内容を検討。 地元メンバーを中心に具体案、役割り分担、スケジュール等を整理する。
2月上旬～中旬	③ トライアル展開実施 ～ 来年度計画素案整理 トライアル展開を実施。その成果と課題を踏まえ、来年度の実施内容について協議。 今年度活動の総括と来年度計画の素案を整理する。
2月末	(4) プロモーション(広報・PR)展開 トライアル結果やそれを踏まえた今後の本格的な展開を民間主導で地域情報誌などで広報するとともに、両市としての取り組みを広く九州管内に発信する。
	● 事業報告書 年度内活動の報告、来年度以降の戦略方針・計画

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

第2回(10月1日開催)

甌島観光の現況整理、並びに観光等事業者ヒアリングから整理された論点(P.4参照)を踏まえ、事業の進め方について、以下の改訂案の承認を得た。

現況調査を踏まえた今後の考え方(案)



島と本土の連携でポジティブな意識で取組んでいただくために

① 「目指したい将来像」を共に考える、前向きなスタートを入り口にする

理想

ギャップ解消のステップ

④
一つひとつの小さな成功体験を積み重ね、段階的に理想に近づいていく手順を皆で考え実践する

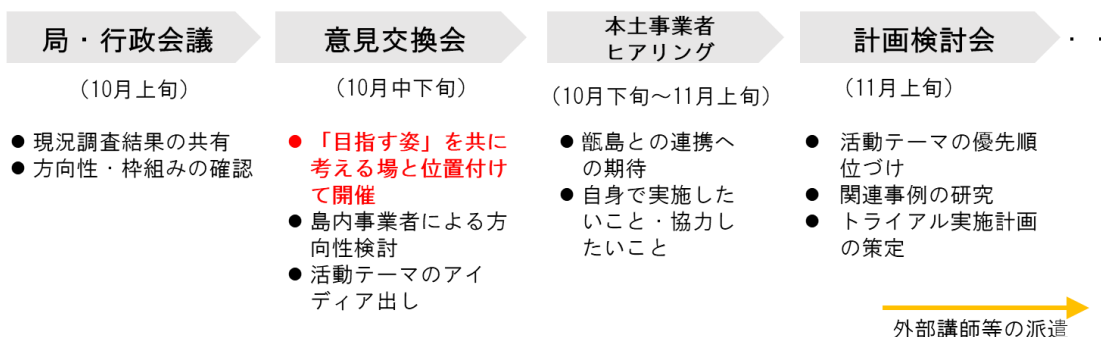
ギャップ

③
現状と理想のギャップを認識し、

現状

② あえて「課題」とせず、目指す姿への出発点として現状を捉える

今後の進め方



(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

■スケジュール（10月1日改訂案）

8/30	● キックオフ会議（事務局内部会議：オンライン） 事業の始動にあたり基本的な実施内容や協議会組織構成、役割分担について協議、確認する
9月上旬	(1) 甌島観光の現状把握（関係者ヒアリング、観光動向調査分析） ● 甌島観光関係事業者ヒアリング（オンライン） ● 観光動向調査・分析（既存資料分析、事例等の調査） ⇒ ヒアリング、調査分析結果をまとめて報告書提出
10/1	(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定 (1)の報告書を踏まえ、本事業の活動方針、計画及び戦略方針について両市役所担当部署メンバーを中心に協議。 特に、コロナ感染症の影響の長期化を念頭に、島内事業者のモチベーション維持につなげていくことを重視して検討を進める。
10月上旬～	
10月中下旬	(3) 島内観光関係者との意見交換、実施内容の精査 (1)の現状把握と(2)での協議内容を踏まえ、島内の観光関係事業者と本事業を活用した取り組みに関しての意見交換、計画づくりを、ステップを踏みながら進行。 本事業が行政主導ではなく、民間の主體的な取り組みを支援する事業であることを前提に、地元の意向を採り入れた計画づくりとなるよう意識する。 《以降の活動案》 ＊状況に応じ、可能な限りリアルで実施
10月下旬	① 意見交換会 本事業のスキーム（民間主体の活動支援）、これまでの協議の状況などを説明したうえで、地元観光関係者と本事業を活用した取り組みに関しての意見交換を行う
11月頃	② 本土事業者ヒアリング 薩摩川内市観光物産協会、及びいちき串木野観光物産センター関係事業者を対象に甌島との連携に期待すること、自身が望む役割などのヒアリングを実施
2月上旬～中旬	③ 計画検討会 本事業を活用した取り組み内容を甌島の事業者を中心に検討し、計画を整理する。3年程度の中期的な目標を設定したうえで、推進体制、年度ごとの実施内容等を検討。 今年度は次年度以降のトライアル的な位置づけとし、目的・目標を設定した上で実施内容を検討。 地元メンバーを中心に具体案、役割り分担、スケジュール等を整理する。
2月末	④ トライアル展開実施 ～ 来年度計画素案整理 トライアル展開を実施。成果と課題を踏まえ、来年度の実施内容について協議。今年度活動の総括と来年度計画の素案を整理する。
	● 事業報告書 年度内活動の報告、来年度以降の戦略方針・計画

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

また、その後の検討会（意見交換会、計画検討会）の対応方針について協議し、以下の実施概要の策定につなげた。

意見交換会、計画検討会に向けた対応の方向性 【10/1の議論を経て設定】

取り組みのポイント

- 個々の事業者が相互に個性を尊重し合い、共に島の魅力づくりに取り組める環境づくり
- 一つひとつの小さな成功体験を積み重ね、段階的に島全体の魅力につなげていく
- 意見交換会参加者からの主体性ある意見・アイデアを起点に取組の具体化を支援

「目指したい将来像」を考える
前向きな活動テーマ設定

「たのしきこしき」を考え、つくる

“甌島観光のこれから”をつつていく
みなさんの**新たな挑戦を応援**する活動

訪れる人も、迎える人も、「楽しい甌島」であるために。
自分たちの得意分野を活かして何が出来るのか？
一緒に考えて、新しいチャレンジをしてみよう！

「会議」ではない、場のタイトルにも工夫

意見交換会 「たのしきこしきアイデアソン」

計画検討会 「たのしきこしきミートアップ」

地元のみなさん主体でのアイデア出し、その膨らませ、
計画の詰めなどを経験値のある事務局スタッフがサポート
事業者同士が相互に得意分野や考え方を知る場でもある

行けるところまで
頑張ってもらう目標設定

アイデアを膨らませる中で、「やってみよう！」という案は、年度内にトライアル実施(=小さな成功体験)を検討。
じっくりと検討、準備した方が良い案は、
来年度実施を想定して計画をまとめる。

年度内目標は、「実施ありき」を強要せず、事業者の主体性にゆだねて設定する

第3回（2月9日開催）

検討会の開催結果報告と、計画検討会で決定されたトライアル計画の内容の承認を得るとともに、検討会を通じて抽出された島内事業者と本土事業者が連携した民間主導の観光振興の取組みを進めるにあたっての課題を抽出、その解決の方向性を協議した。

10/26
開催

意見交換会

「たのしきこしきアイデアソン」

参加者数 ①里会場 7名 ②長浜会場 11名

「たのしきこしきアイデアソン（意見交換会）」で出た意見・アイデアを起点とした活動の方向性

【意見・アイデア（一部抜粋）】

- <里会場> ・島の人の世話好きな気質を取り入れたユニバーサルツーリズム推進
・マニアックな特徴がある資源を効果的に届け・集客する
・観光客が増えなくても自然や地域の暮らしは守りたい
- <長浜会場> ・事業継続に必要な観光収入の底上げ
・甌島の独自価値を伝え客単価を上げる
・島内交通の改善が必要
- <共通意見> ・雨天・荒天時対応のさらなる推進が必要
→荒天時等に島・本土間で連携して使える代替案サブスク型の仕組み構築

【計画検討会に向けた3つのチームの取り組みテーマ】

こしきならではの！
超マニアック エコツーリズム
（言い出しっぱ→近藤さん：ガイド業）

～もう雨風のせいにはしない！～
全天候対応 たのしきこしきの過ごし方
（言い出しっぱ→山河さん：宿泊業）

【意見・アイデアから抽出したふたつの方向性】

- ① 甌島ならではの魅力づくり
（ニッチ、マニアック）
- ② 雨天・荒天の対策
（島内・本土連携強化、サブスク型サービス）

～欠航でも結構楽しめる？～
たのしきこしき 本土連動サブスクリプション
（言い出しっぱ→石原さん：宿泊業）

12/20

計画検討会

「たのしきこしき 新たな挑戦」ミートアップ

参加者数 12/20 雨天対策7名 エコツアー7名 サブスク1名

1/19-20

1/19 里会場 7名 長浜・手打会場 7名

開催 「たのしきこしき 新たな挑戦 ミートアップ（計画検討会）」での検討状況

<3つの活動チーム>

マニアックエコツーリズム チーム
（言い出しっぱ→近藤さん：ガイド業）

雨天対策 チーム
（言い出しっぱ→山河さん：宿泊業）

本土連動サブスクリプションサービス チーム
（言い出しっぱ→石原さん：宿泊業）

<第1回 活動内容検討>

- ① フィールドマップの作成
- ② 山と海を組合わせたプログラムづくり
- ③ 飲食・宿泊業等と連携したPR計画
- ④ 初級者向けガイドコンテンツを開発・将来的に販売を目指す

（課題）

- ・先行他地域との差別化、優位性
- ・エコツアー地域認定の取得
- ・古い案内看板等の更新、トイレ増設 等

（共通課題）・収益性の確保/高付加価値化 ・情報集約と発信機能 ⇒ 持続可能な事業性

- ① 雨天対策検討の場づくり/継続実施
（まずはエリア内で情報交換&トライアル検討）
- ② 先ずは定期的な体験プログラム開催を重ね、その先に雨天対策を位置付ける
- ③ 他の雨天対策用会場候補の情報収集

（課題）

- ・機材・材料等の保管場所（会場付近に）
- ・観光客・ボランティア提供者・会場提供者をつなぐ「情報ハブ機能」の必要性 等

- ① 石原さん既知ネットワークの関係者間で意見交換の中で課題の洗い出しを行う
・市比野温泉（薩摩川内市）
・白浜温泉（いちき串木野市）
との意見交換からスタート

（課題）

- ・代替する際の「商品価値」をどう調整するか
- ・決済、利益配分の仕組みづくり
- ※上記以外にも実運用にはハードルが多そう

※トライアル計画の内容と2月上旬時点の課題は次ページ参照

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

予定
調整中

トライアルの検討
～課題はあるがやれる事は進めよう～

「たのしき こしき 新たな挑戦」 トライアル 2チームが実施を検討

島内宿泊事業者等に体験参加してもらう
「体験エコツアー」をトライアル開催
山と海＋食を組合わせた甬島の魅力を象
徴するプログラムを準備・実践し、まずは
島民にその魅力を体験してもらう

エリアワンの活用方法検証を兼ねて
「クラフト体験市」をトライアル開催
2～3の体験系メニューをエリアワンの
ロビースペースで実施。
島内で関心ある方への呼びかけを行う。

今年度のトライアル実施はなし

雨天対策のトライアルに、市比野温泉や白浜
温泉の関係者に参加（リアルまたはオンライン）
で参加してもらうことも検討

意見交換会、計画検討会を経ての成果と課題

【2月上旬時点】

取り組みの
ポイント

- 個々の事業者が相互に個性を尊重し合い、共に島の魅力づくりに取り組める環境づくり
- 一つひとつの小さな成功体験を積み重ね、段階的に島全体の魅力につなげていく
- 意見交換会参加者からの主体性ある意見・アイデアを起点に取組みの具体化を支援

「目指したい将来像」を考える
前向きな活動テーマ設定

「たのしきこしき」を考え、つくる

成果

島内の意欲的な事業者が参加を重ねる中で、3つのテーマとチームが編成できたことは、本事業での新しい取り組みへの期待が伺える。内2つは計画検討会を経てトライアル実施の意欲を持って活動を継続している。

課題

継続して参加している事業者がいる一方で、公平性の観点からも、より多くの事業者の参加を促していくことが求められる。
より広い事業者への声掛けに関しても、事務局と連携して対応する窓口としての観光物産協会の役割が求められる。

「会議」ではない、場のタイトルにも工夫

意見交換会 「たのしきこしきアイデアソン」

計画検討会 「たのしきこしきミートアップ」

参加者の主体的アイデアを起点に、事業者同士が議論する中で、取り組みのテーマが抽出され、「やらされ感」は払拭され、前向きな議論が重ねられた。
事業者同士が話し合いを重ね、お互いを知ることにより、深い議論につながっている。

事務局のサポートでけん引している活動を地元主体の継続的な活動に移行できるか。そのためのハブとなる人材の不在をどう解決するか。
地元からは、観光物産協会への期待が大きいが、要員体制面等の問題をいかにクリアしていくかが課題。

行けるところまで
頑張ってもらい目標設定

「やってみよう！」という案は、年度内に
トライアル実施(=小さな成功体験)

2つのテーマでトライアルに向けての具体的な内容の詰めが進んでいる。
課題はあるが、自分たちでやれるところまでやってみようという意欲が見られる。

コロナ感染状況により、開催が不透明な状況でいかにモチベーションを維持できるか。
また、体験提供者には、ベテランの方、初心者の方それぞれ取り組みに参加する可能性があり、収益性等双方の目標の違い等にも留意した対応が必須。

第4回（3月25日開催）

2月中旬の実施を予定していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響によりトライアルを含め3月上旬に開催を延期。その取材による甬島島内事業者の新たな挑戦の開始に関するプロモーションの実施結果を報告した。

また、今年度の調査事業としての取り組みのまとめを報告し、今後の取り組みの考え方や具体的な活動案の提案（次ページ参照）について、両市並びに九州経済産業局と協議した。

※トライアル、並びにプロモーションの実施結果については後述。

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

令和4年度に解決を目指す課題

- ① 移動制限の影響を抑えた3エリア（甕島と本土の両市）の観光関係事業者・団体間の円滑なコミュニケーション
- ② 各事業者の各々の個性を際立てつつ、相乗効果を生み出す体制づくり
- ③ 3エリアに共通するテーマ・資源に基づいた広域的な観光誘客の仕組みの構築

活動の方向性（案）

●全体方針

本広域連携事業を契機に、行政主導から民間発案の主体的活動を起動し、島内事業者間の関係強化と両市本土事業者との連携によって、「新しい甕の楽しみ方（＝付加価値）」を創造し、「稼げる観光」実現を目指す。

●事業内容

今年度活動で起動した島内事業者主体の新たな活動の芽吹きを基盤に、島内事業者、本土事業者を更に巻き込み、活動を拡大する

トライアル
検証

R3年度活動、トライアル結果を検証し、今後の活動の方向性を抽出

広域連携
体制づくり

島内事業者の更なる巻き込み、両市本土側事業者との連携拡大で、広域連携の体制を構築

魅力
づくり

広域連携による「新しい甕の楽しみ方」の創造に取り組み、広域観光モデルルートに落とし込むと共に、「稼ぐ仕組みづくり」を検討する

広域
ルート
開発

●成果指標

- ◇ 基本方針：R3年度活動の深度化と拡大
- ◇ 島・2市本土連携具体化に向けた活動推進
- ◇ 事業者主体の活動テーマ、商品化検討件数

●取り組み体制



行政主導から民主体の活動への移行を目指し、意欲的事業者グループの「小さな成功体験」を積み上げながら、島内事業者の巻き込み、本土連携の拡大に取り組む。

具体的取り組み（案）

①魅力発信コンテンツの継続的な制作の仕組みづくり

各事業者が各々の個性を活かした既存商品の情報発信力の向上実現するため、島と本土の特徴を組合せた魅力を言語化・ビジュアル化した発信を通じて、県内、及び九州管内での本地域の認知度向上を図るとともに、それらコンテンツの継続的な制作の仕組みづくりを検討、具体化する。

②モデルプランの策定と発信

具体的な滞在行動に結び付けるため、島と本土が連携した1泊2日程度のモデルプランを、異なるターゲットを想定して2～3つ程度作成して発信する。

③商材開発による稼ぐ仕組みづくり

策定したモデルプランについて、夏と秋以降、好天と雨天等の異なる条件設定を意識し、観光事業者が主体となり、専門家の助言と両市観光団体の協力を受けながら、モデルプランに基づく旅行商品造成・磨き上げを行う。また、飲食店等は同モデルプランを象徴するような産品開発と製造・販売方法の検討を行う。

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

②検討会の開催

甕島島内の観光関係事業者に参加を呼びかけ、甕島の観光活性化の実践活動に関する検討会を開催した。

第1回（10月26日開催）：意見交換会（島内状況に合わせ計画検討会の代替として実施）

全体概要

実施日時 令和3年10月26日（火）

①里会場 10:30～12:00

②長浜会場 14:00～15:30

実施会場 ①里会場 里定住センター

②長浜会場 長浜地区コミュニティセンター

参加者数 ①里会場 7名

②長浜会場 11名

主な意見

<里会場>

- ・島の人達の世話好きな気質を取り入れたユニバーサルツーリズムを推進している
- ・雨天・荒天時対応のさらなる推進が必要
（荒天時などに島と本土間で連携して使用できる、代替案サブスクリプション型の仕組みの構築）
- ・マニアックな特徴がある資源を効果的に届け・集客する
- ・観光客が増えても自然や地域の暮らしは守りたい

<長浜会場>

- ・事業継続に必要な観光収入の底上げ
- ・甕島の独自価値を伝え客単価を上げる
- ・島内交通の改善が必要
- ・荒天時の代替案の充実化が必要

今後の進め方

- ・島内事業者等が交流・情報共有できる体制づくりを検討する
- ・本土事業者にも意見交換会の意見などをつたえ関わりを働きかける
- ・薩摩川内市・いちき串木野市と九州経済産業局も交えた会議体をつくる
- ・具体的アイディアの実現に向けたチーム編成をする



(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

第2回（12月20日開催）：計画検討会①

全体概要

実施日時 令和3年12月20日（月）13:30～15:30

実施会場 鹿島地区コミュニティセンター

参加者数 事業者8名 オブザーバー5名

実施目的 事前に実施した意見交換会で抽出された甌島観光の活性化に向けた論点と、それを踏まえた各チームの具体的な活動計画に掛かる協議（第1回）

目 標 メンバーの相互理解、次の活動の構想（全体目標と今年度目標の確認）

討議の主な意見と事務局所感

<マニアックエコツアーチーム>

◎主な意見

- ・甌島は貴重な山野草や地質資源などがエコツーリズムで活用すべき資源であるが、情報発信を含め魅力が伝わっていない。
- ・海と山の魅力を組み合わせたプログラム創出と関連する情報発信に取り組む。飲食や宿泊との顧客シェアも期待される。
- ・食の魅力開発にも余地がある。漁師さんや飲食店との連携を進めたい。
- ・情報発信や安全管理の面で、観光物産協会や行政との調整の必要性を感じる。

◎事務局所感

- ・新規開業者のみならず既存事業者も集客に苦勞し安定経営に苦慮、その改善に向けた集客の工夫や他業種との連携が必要。

<雨天対策チーム>

◎主な意見

- ・ホテルの宴会場などの活用は可能性がある。体験プログラムの提供主体（候補）との現場確認や活用方法などの協議が必要。
- ・プログラム提供者は相当数に及ぶ可能性があるため、リスト化して、関係者で共有することも重要。
- ・場所については、行政管理物件等の利用も考えられないか。ホテルやその他宿泊施設の検討に加え、行政にも相談が必要。

◎事務局所感

- ・雨天対策の重要性や実現可能性が高いことは、参加メンバーの共通認識。ただし、コンテンツホルダー（提供候補者）のお互いの交流が不十分で、連携・協働での課題解決意欲の喚起が重要なポイント。

<サブスクリプションプログラム>メンバーが欠席のため、以下は、言い出しつべの石原さんと事務局との協議結果

- ・サブスクリプション（定額制）による宿泊と体験プログラムのセット販売はハードル高いが、本土の市比野温泉（薩摩川内市）や白浜温泉（いちき串木野市）の関係団体と実現に向けた協議に着手、来年度のスモールスタートを目指す。

今後の進め方

- ・2月のトライアル実施に向けた準備を、各チーム毎に事務局がサポートしながら進める。
- ・今後の活動環境整備については、事業者の要望を事務局から両市役所に届け対応を協議する。
※トライアル実施の対象とする活動は次ページ以降の各チームの活動内容進捗により、年明けに検討する。



オブザーバー参加者事前説明

薩摩川内市・いちき串木野市 ご担当
いちき串木野観光物産センターご担当



計画検討会 冒頭概要説明



エコツアーチーム



雨天対策チーム

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

第3回（1月19 - 20日開催）：計画検討会②

雨天対策チーム概要

実施日時 令和4年1月19日（水）13:00～15:30

実施会場 HOTEL Areaone Koshiki Island 宴会場

参加者数 事業者6名 オブザーバー1名

実施目的 雨天時プログラムの提供会場候補をプログラム提供者が確認し、
2月末実施想定トライアル準備について検討する。

目 標 トライアルを実施するプログラムの選定と実施準備の検討

協議内容

◎主な意見

- ・実施会場には、当日だけでなく使用機材などを保管できるスペースがあれば機動性高く実施できる
- ・プログラム提供者と日々コンタクトがとれる窓口機能が必要となるが、専任を置く余裕はない
- ・はじめから雨天対策としてプログラム提供するのは難しい。ある程度の実績を積んでから雨天時の対応を考えるのが現実的
- ・トライアルとしてホテルの空きスペースを提供することは可能
- ・人数制限を設けるのであれば温泉入浴と体験のセット化も可能

◎今後の対応

- ・島民を対象としたプログラム提供のトライアルを2月27日（日）に実施する。26日（土）に事前準備
- ・対象は島内の親子連れを想定（島民への関心喚起と実施主体の掘り起こし）
- ・実施内容は玉石アートと、魚の鱗のアクセサリー、流木アート&クラフト
- ・実施概要を事務局が整理したのち、検討会参加メンバーから島内関係者に実施を周知して、参加を呼び掛ける



(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

マニアックエコツアーチーム概要

実施日時 令和4年1月20日（木）8:00～14:30

実施会場 松島展望台付近のトレイル・手打海岸

参加者数 事業者7名

実施目的 山と海のアクティビティを統合したプログラムと、地域食材を活用した食のアクティビティの組合せ展開の検討
目 標 トライアルの内容検討と方向性の詰め

協議内容

◎主な意見

- ・これまで構想検討を重ねてきたが、事業者が連携した実践に進むことはほとんど無かった
- ・それぞれの活動の意義を尊重しながら核となるプログラムの実施を皆でサポートして、徐々に活動内容をスピンオフさせていくのが良いと考える
- ・食材調達は業務用や特別な伝手があれば実現できるが、新規参入にはハードルが高い
- ・先行地域が多数ある中、エコツアーとして後発して客を獲得するには、よほど特徴ある内容で実施しないと継続的な参加や運営は困難
- ・エコツアーの認定を受けることは不可欠
- ・島内には古い時代の道案内が混在しており、非常に不案内と感じる。新たな精度高い「案内看板」の設置が必要
- ・トイレの整備も遅れている。野外プログラム用のトイレ設置を真剣に検討する必要がある
- ・キャンプの雨天対策として廃校利用も検討すべき

◎今後の対応

- ・トレイルウォークと野外調理、カヤック組み合わせた試験ツアーを2月28日（月）に実施する。
- ・対象は、今後ツアーをPRを依頼する宿泊業者など島内観光事業者
- ・試験ツアーに関係するエリア、並びに食材確保と漁業関連の環境学習プログラムを提供している手打集落のフィールドマップを試作する
- ・漁師・飲食店の協力を得て昼食メニューを開発する
- ・そのほか、ツアーの持続性を高めるための島内外の物販も検討する



(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

トライアルの実施

チーム共通

- 趣 旨** 甌島と本土が連携して地域の観光の魅力を最大化する新たな活動の一環として、島内事業者との意見交換から島内事業者有志が自主的に立ち上げた新たな二つのチームの挑戦を、島内と本土の事業者や市民に周知するとともに、次年度以降に本格販売を検討する予定の旅行商品・体験プログラム(案)のプロモーションを行うもの。
- 実施日** ▶2022/3/9 雨天対策チーム ▶2022/3/10 エコツアーチーム
- 参加者** 島内の観光関係事業者、薩摩川内市観光物産協会、薩摩川内市、いちき串木野市、九州経済産業局、地域メディア

雨天対策チーム

3月9日(水) 実施

目的: 雨天時の体験プログラムの拡充を目指し、代表的なプログラムを素材とした候補提供会場の使用感などの検証や、プログラム提供の可能性がある事業者に事業展開の感触をつかんでもらう。

会 場: HOTEL Areaone Koshiki Island エントランスホール

参加者: 事業者9名、専門家1名、オブザーバー5名、メディア3社

<タイムテーブル>

- 9:00 関係者集合・会場設営
- 10:00 甌島クラフト市(テスト開催)
玉石アート・流木&マクラメ編み・流木アート展示
- 12:00 意見交換会
- 12:30 解散・撤収



エコツアーチーム

3月10日(木) 実施

目的: 新たな試みである野外調理による昼食提供を含め、大人数のトライアルツアーの運営課題の抽出、設定コースの対象層の見極め等を行う。

会 場: 内川内集落と地先海岸

参加者: 事業者3名、専門家1名、オブザーバー4名、メディア1社

<タイムテーブル>

- 8:00 関係者長浜集合
- 9:00 内川内トレイル入口集合・トレイルウォーク
- 10:30 内川内地先海岸にて野外調理体験
- 12:10 意見交換会
- 14:30 運営担当等協議
- 15:30 解散



<意見交換での主な意見>

雨天対策チーム

- ・実際に体験するととても楽しい。特に雨の日であれば、もう少しゆっくりと時間を過ごせるような場所でも良いと感じた。
- ・場所も良くどのように呼び込むか。内容含め、観光集客の専門家のアドバイスを貰うと可能性が広がると感じた。
- ・継続するための材料の確保、講師の確保、予約方法などの検討が必要と感じる。
- ・定期開催とするのであれば講師を組織化する必要がある。作品展示などと組み合わせた展開で組織化に近づきたい。
- ・雨天に限らない展開も考えられる。温泉の入浴とセットにする商品開発にも可能性があると感じる。
- ・材料準備などを島民の協力を得て実施し、材料購入で島の経済に寄与する方法もある。その場合は、作品クオリティを挙げ講師養成に力を入れる必要がある。

エコツアーチーム

- ・初心者でもアクセス容易にこのような絶景が体験できるのは素晴らしい。
- ・初心者を対象とするのであれば必要な装備やトイレが無いとの情報は不可欠。ややハードル高いように感じる。
- ・採算を考えると単価が高い設定が望ましいが、その場合グランピングなどの必要機材の運搬について工夫が必要となる。
- ・昼食がとてもよかった。新鮮な食材を景色良いところで美味しく食べられ、また地元郷土料理も良かった。
- ・風景に意味があることが理解でき、自然をよく観察した暮らしがまさにエコであると理解できた。

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

専門家による助言

以上の活動の計画検討・実践にあたっては、以下の3名の専門家の助言を受けて実施した。

専門家名	助言内容
田中 義朗氏 (一社) 富士山チャレンジ プラットフォーム	甕島において白亜紀の地層・化石や低山登山を題材としたプログラム開発についての助言 地形地質の専門的知見を活かした防災専門家として活動。木曽御嶽山火山噴火で登山者の所在確認ができ未曾有の災害となった教訓を踏まえ、登山客の安全管理について、ビーコンを使った対策の仕組み構築に携わっている。 また、同ビーコンは災害時以外には、スタンプラリー形式のプログラム構築にも利用できることに着目し、広義の安全管理の視点から低山登山によるトレーニング推奨にも取り組んでいる。 その経験から、甕島の地形・地質や、一般登山客が好む高山とは異なる低山の魅力の活かし方について助言を求めた。 主なアドバイスは以下のとおり ・ 地形地質は、テレビ番組の影響もあり注目を集めているが、マニアックさと身近さのバランスが必要である。学術的な知見を、いかに平易に伝えるか、その技術にはかなりのテクニックを要する。 ・ 食や健康志向は、里山を活用した観光との親和性が高い。しかしそこにオリジナリティを出すためには、地域の生業との関連性など、地域特性に注目する必要がある。 ・ 甕島に関しては、独特の地形地質が興味を引き、また素人でも距離的にはアクセスが比較的容易な場所にあることが強みと考える。 ・ ただし、初心者が気軽な装備で入山してしまい道迷い、滑落などの事故も発生し、そうした事案対応には十分留意が必要である。 ・ 現地ガイドを付けることが解決策ではあるが、有料の低山ガイドの普及にはまだ時間を要するところがある。
福田 護氏 もりのかくれんぼ	地域の素材を使ったクラフトなどの体験プログラムの運営について 金沢市に在住し、白山の麓の山主と共同で、里山体験基地の運営を行っている。元々、家電メーカーでプロダクトデザインを担当する技術者であった。退職を機に、里山活動や手作りクラフトのワークショップなどの表現活動のプログラム提供を行っている。 最近では、ワーケーション体験の受け入れにも着手している。 主なアドバイスは以下のとおり ・ クラフト体験は一定の需要はあるが、30分程度と短く手軽なプログラムは、真剣みが足りずに却って定着しない。 ・ 制作時に参加者は見本を求めるが、元々は自由な発想で作ることに意義があり、とにかく自分でやってみることを先に伝えることが重要。 ・ その上で、相手の求めに応じてコツを教えるなど自発性を重視し、失敗を恐れない、自分でチャレンジすることを伝えるのが良い。 ・ 安全管理は重要であるが、道具の使い方を最初にしっかりと教え、過去の失敗例に基づく注意喚起を事前に行うことで、あとは細かい指示はしないようにしている。 ・ 特に子供たちは、「冒険」する機会が極端に減っており、旅先の非日常を味わってもらうためには、大人の干渉を最小限に抑える（親を離す）ように心がけている。 ・ ただし、安全管理に絶対はないので、事前に多少の怪我が起きるリスクは説明し、書面にて発生し得るリスクを保護者にも伝えるようにしている。

(2) 活動方針・計画及び戦略方針の策定

専門家名	助言内容
高橋 功氏 (株)南都	太古の歴史を観光活用する際の留意点
沖縄の観光施設「ガンガラーの谷」の所長。運営する観光施設は、約3万年前の港川原人が発掘された遺跡の一角を成し、「自然」「古代人」「祈り」をテーマとしたガイドツアーやカフェ機能を持つ施設である。 高橋氏は、大学時代に地形学を学び、ワンダーフォーゲル部に所属し、沖縄本島から鹿児島本土までのカヤックの旅を実践した経験を持つ。 主なアドバイスは以下のとおり ・太古の歴史をお客様に見ていただく場合、目の前に広がる現物と当時のギャップを埋める話術のテクニックが必要となる。 ・当施設では、その技術研修に、情景描写で多くの人を惹きつける落語家の話術を取り入れる工夫をしている。 ・歴史資源の解説は、学術的な知見に基づいた解説が基本となるが、特に古い時代は材料となる知見の蓄積が十分でない場合もあり、大胆な解釈が必要となる場合もある。ただし、その際は科学的知見の有無を明確に伝えることに留意する必要がある。 ・博物館的な観光は、見学や説明解説が中心となり、体験を期待する層への訴求力に欠けるところも否めない。そうした事は、資料は限られているが、当時の生活復元とその体験などの開発を進めているところである。 ・甑島は、一般の人には未知の領域でもあり、カヤックという特別感が演出できるツールの活用は、独特の地形地質との組み合わせで、オリジナリティ高い展開が期待される。	

プロモーションの実施、メディア対応に特化する点については以下の1名の専門家の助言を受けて実施した。

専門家名	助言内容
田尾友輔氏 友・ダンジェロ（有）	薩摩川内市・いちき串木野市、及び鹿児島県内を対象に、甑島観光の活性化に向けた島内事業者の新たな挑戦に係るプロモーション施策の立案と実施への助言とサポート
空間・ランドスケープデザインのバックボーンを有し、薩摩川内市の地産地消のマルシェイベントの運営に携わり、その後川内川の面した空き倉庫（旧ボート小屋）にて、地域クラフトや食、その他各種のテーマに対応するイベントスペースを運営。さらに、地域のコミュニティFMで週1回の番組パーソナリティも担当している。 今回の田尾氏によるサポート対応事項は以下のとおり ・地域の事業者が新たなチャレンジとして取り組む体験プログラムやツアー運営の情報を、地域の一般消費者に届けるためのプロモーション戦略の立案 ・そのプロモーションを実効性あるものとするための地域メディアの選定とSNS・WEB施策の連携のコーディネート（計2メディア） ・プロモーションの効果測定の検討ととりまとめのアドバイス ・プロモーション素材の取得のための地域メディア取材のアレンジと取材当日のメディアアテンド。現地での取材対象者のサポート。	

(3) プロモーションの内容検討及び実施

甌島島内の観光関係事業者が主導して取り組む、地域の新たな旅先のアクティビティ開発の活動を、今後のマイクロツーリズム市場となる薩摩川内市やいちき串木野市の本土一般に向けた発信、並びに離島観光に関心のある層に向けた発信を目的に、プロモーション活動を検討、実施した。

内容検討、及び実施にあたっては、地元コミュニティFMで番組を担当し、自ら市内でイベントスペースの運営等に携わる田尾氏に協力を依頼、メディア編成のコーディネート、トライアルの取材対応、並びにプロモーション趣旨に則した記事制作に関するメディア対応のサポートを受けた（実施内容は次ページ参照）。

<協力・記事掲載依頼先>

- FMさつませんだい（コミュニティFM）＋薩摩川内市観光物産協会
- 南日本新聞

日付	実施事項	内容
3/9、10	現地取材	甌島にて、次年度以降の本土の観光地との連携強化に向けた準備活動として、9日はクラフト体験についてホテルで実施するためのテストの模様を、10日は自然を五感で楽しむ地元の達人が案内するエコツアーの様子を取材。
3/15	新聞記事掲載	甌島の新たな挑戦に関する記事を掲載。島内事業者が新たな観光プランづくりに着手、数年後の事業化を目指す内容について報じる。
3/15	WEB記事掲載	甌島での取材内容をレポート。レポートでは、観光客目線での旅先での新たなアクティビティ発掘をして、その楽しさを伝えることに重点化して記事を作成する。 また、同記事では、2名様に5,000円相当（送料含む）の甌島物産をプレゼントする記事への感想コメントを募集する懸賞について告知。
3/16	取材の様子をラジオで紹介	地元の方が取り組む新たな挑戦の様子の取材内容等について、ラジオ番組で紹介。WEB記事の投稿をお知らせし、併せて懸賞応募を告知する。
3/17	懸賞応募ページ 検証データ集約	
3/22	結果報告	記事の内容とそれに対する反応（コメント）を集約し、「甌島の新たな活動」に関するプロモーション結果（周知効果）の検証結果をレポートにまとめる。

趣 旨 新型コロナウイルスの影響下においても、工夫を凝らして進める島内事業者の新たな挑戦を地域メディアを通じて広く周知し、両市本土事業者の事業参画の誘導と、今後の展開が期待される県内から、また九州管内からのマイクロツーリズムの喚起を目指す。

地域FM：FMさつませんだいの実施内容

▼番組での紹介

3/17放送の番組「田尾友輔のRIVER FRONT RADIO」内でのトライアルの様子などの紹介

▼サイトでの記事掲載

主要な取り組みの関連写真とともに、番組でも紹介したトライアル内容の記事を掲載（3月15日、3月16日）

地域新聞：南日本新聞への依頼

▼トライアルの様子取材

予定しているトライアルについて、同行記事として掲載するための取材の実施

▼トライアル実施結果の記事掲載

取材した内容について、新聞紙面で記事掲載（3月15日付）

(3) プロモーションの内容検討及び実施

専門家による助言(再掲)

特にプロモーションの実施、メディア対応に特化する点については以下の1名の専門家の助言を受けて実施した。

専門家名	助言内容
田尾友輔氏 友・ダンジェロ（有）	薩摩川内市・いちき串木野市、及び鹿児島県内を対象に、甌島観光の活性化に向けた島内事業者の新たな挑戦に係るプロモーション施策の立案と実施への助言とサポート
空間・ランドスケープデザインのバックボーンを有し、薩摩川内市の地産地消のマルシェイベントの運営に携わり、その後川内川の面した空き倉庫（旧ボート小屋）にて、地域クラフトや食、その他各種のテーマに対応するイベントスペースを運営。さらに、地域のコミュニティFMで週1回の番組パーソナリティも担当している。 今回の田尾氏によるサポート対応事項は以下のとおり ・ 地域の事業者が新たなチャレンジとして取り組む体験プログラムやツアー運営の情報を、地域の一般消費者に届けるためのプロモーション戦略の立案 ・ そのプロモーションを実効性あるものとするための地域メディアの選定とSNS・WEB施策の連携のコーディネート（計2メディア） ・ プロモーションの効果測定の検討ととりまとめのアドバイス ・ プロモーション素材の取得のための地域メディア取材のアレンジと取材当日のメディアアテンド。現地での取材対象者のサポート。	

(3) プロモーションの内容検討及び実施

実施結果

薩摩川内観光物産ガイドサイト「ころろ」掲載記事
(FMさつまさんだい WEBサイトの掲載記事も同様)



南日本新聞掲載記事



<https://satsumasendai.gr.jp/62591/>

<https://satsumasendai.gr.jp/62616/>

Web記事・SNS

1. FMさつまさんだいWeb記事_表示数

クラフト...【73】
エコツアー...【117】

2. 薩摩川内観光物産ガイドころろWeb記事_表示数

クラフト...【114】
エコツアー...【203】

3. FMさつまさんだい【Instagram】_表示数

◎投稿

- ・クラフトリーチ数1,458/インプレッション数1,923/いいね115
- ・エコツアリーチ数2,663/インプレッション数2,848/いいね174

◎ストーリーズ

- ・クラフトURLクリック数12
- ・エコツアーURLクリック数18

4. FMさつまさんだい【Twitter】_表示数

◎投稿

- ・クラフト①インプレッション数2,691/URLクリック数13
- ・クラフト②インプレッション数1,473
- ・エコツアー①インプレッション数1,394/URLクリック数10
- ・エコツアー②インプレッション数745/URLクリック数4
- ・エコツアー③インプレッション数963/URLクリック数16

5. FMさつまさんだいFacebook

- ・クラフト投稿リーチ数400/クリック数4
- ・エコツアー投稿リーチ数735/クリック数9

6. 観光物産協会【Instagram】

- ・クラフトストーリーズクリック数6
- ・エコツアーストーリーズクリック数8

(3) プロモーションの内容検討及び実施

効果測定 アンケートの回答

<回答者属性>

雨天対策 全24名：女性17名、男性7名 / 県内20名、県外4名

エコツアー 全12名：女性 8名、男性4名 / 県内 5名、県外7名（うち1名は台湾）

雨天対策トライアル

<設問>

Q1. 自然素材アートを楽しむ体験プログラムに参加してみたいと思いましたか？

Q2. 特にどの体験プログラムに参加したいと思いましたか？

Q3. 雨天時の甌島で、どのような体験プログラムがあったら良いと思いますか？

Q4. 天候に関わらず甌島旅行する際、どのような体験をしたいですか？

Q5. その他、甌島に関するご意見等ございましたらご自由にご記入ください。

■ 体験を希望するプログラム(複数回答)

玉石アート 10名、流木&マクラメ編み 5名、流木アート 13名

■ その他雨天時に期待するプログラム

恐竜関連のプログラム、バードウォッチング、アクセサリ作り、ボトリウム（瓶を使った小型水族館）、シーグラスドーム作り、郷土料理教室、魚のさばき体験、屋根付き海産物BBQ、食品加工・酒蔵見学、カフェ&グルメ巡り、雨天の景色見学、室内スポーツ

■ 天候関わらずに期待するプログラム

写真講座、ごったん（楽器）体験、化石関係の体験、エクストリームな自然体験、海のアクティビティ、クルーズ、魚料理を楽しむ、特別な写真撮影、リゾート用品のレンタル、武家屋敷でのコスプレ体験

■ その他意見（一部抜粋）

天候不安の解消を期待する／無料の電動自転車貸出／船の増便を期待する／子供が楽しんだので親の自分も行きたい／11月に旅行したが昼食場所が少ないと感じた。展望台の解説が難しすぎる／「こしきじま」と「甌島」が一致するようなPRが必要に思う／日帰りプランの充実を期待する

エコツアートライアル

<設問>

Q1. マニアックエコツアーに参加してみたいと思いましたか？

Q2. 特にどの体験・スポットが魅力的だと思いましたか？

Q3. 上記の他に、マニアックエコツアーにどのような体験プログラムがあったら良いと思いますか？

Q4. もしマニアックエコツアーに参加される場合、懸念されることはありますか？

Q5. その他、甌島に関するご意見等ございましたらご自由にご記入ください。

■ 体験を希望するプログラム

先人の暮しガイド 1名、神社裏絶景スポット 9名、内川内の滝 3名、海の幸ランチ 5名

■ その他マニアックエコツアーに期待するプログラム

星空観察キャンプ、滝下り、海からアプローチするトレイル、ビーチコーミング、写真講座、自分で食材を収穫しての調理、漁業体験、温泉、電動自転車ツアー、歴史スポットの探訪、クルーズ

■ マニアックエコツアーの懸念点

トイレ、体力、対象年齢、天候、飲料水、救難対応、危険生物への対応

■ その他意見（一部抜粋）

実際に参加したい／本土市民の割引も期待する／子供のアクティビティの充実に期待／自分と同じ島の人と過ごした体験を子供にさせてあげたい／現地での乗り物の対応が心配